

# ひんがらかわらばん

第1号  
発行 2013年11月11日  
九州教区  
東日本大震災対策小委員会



## 被災地は今

九州教区は、東北教区被災者支援センター(通称「エマオ」)にボランティアを派遣しています。第4次派遣が始まるにあたって、8月末、同センターを訪ね、専従者の佐藤真史さんにインタビューを行いました。被災地とセンターの今をお伝えします。

— まずは、被災地と被災者支援センターの状況をお願いします。しかし、まだまだ手が届かないところがあります。仙台の

**佐藤真史**(さとうまさし 以下 ま)  
被災者支援センター「エマオ」の活動は中長期支援に移行してきています。最初のころのような泥かきや瓦礫の片付けなどはなくなり、畑の草むしりや野菜の収穫など、一見して被災支援とはわかりづらくなっています。農家の再スタートのお手伝いをスローワークで続けています。

多くの支援団体が、その働きを終えたとして、活動を縮小し、撤退を

は60戸のうち32戸しか残っていま

せん(8月23日時点)。しかし、残っている人々は、集団移転せざるを得ない方たちや、経済的理由や障がいのために出ることが出来ない方たちです。

— なるほど、残っている人が少数となっても、いや、むしろ少数だからこそ、エマオの働きの意義は大きいのですね。働きは当面続くのですね。

**ま** 被災者支援センターは、当初2年間の期限で働きを開始しましたが、2013年度の東北教区総会で、2014年度末までの2年間、働きを続けることを決めました。更に、仮設があるかぎり続けることも確認しています。

— 今、何か課題がありますか。

**ま** ボランティアと献金が減り始めていることです。

— 現在、ボランティアに来ているのはどんな人たちですか。

**ま** 夏場は、特にキリスト教主義の大学・高校の若い学生・生徒さんや、台湾基督長老教会からの派遣ボランティアが大勢きています。

他には、リピーターの方が多いです。新しい方、また

中高年の方にも是非来ていただきたいです。ワークも多様になって、体力に自信がない方にもできる奉仕がたくさんあります。

— そうすると、わたしたち九州教区が、少しずつでも多様な年齢層の方を送りつづけているのは、意義あることなのですね。

**ま** そのとおりです。それから、課題がもう一つあります。若いスタッフたちが、活動を支えてくれていますが、さまざまな背景をもった人との出会いがあつて、戸惑い、疲れを覚えることも多いのです。そのため、スタッフのケアも課題です。今年度

はスタッフの研修会を行いました。年度内にできればもう一回行いたいと希望しています。

— スタッフの方々は献身的に働いて下さっていますよね。本当に感謝なことです。ボランティアを支えるスタッフの方々のことも覚えていきたいと思えます。今日は忙しいところ、お時間をいただき、ありがとうございます。

**佐藤真史**さんは、大変実直な印象の人でした。エマオの現場のまとめ役として、また、若いスタッフの頼れる兄貴として活躍しています。



佐藤真史さん  
左は直筆のサイン



# ボランティア報告

赤星恭子さん

(鹿兒島加治屋町教会)

「私の家の跡かも」と、荒浜地区を見てきたこと、そして緑広がる原っぱのあちこちに花が咲いていたことを話した時の、ある婦人の言葉です。「花が好きで、たくさん植えていたからね。今日は見には行けないけど」と。七郷中央公園急仮設住宅を訪ね、集会所に集まっておられる10人位の方とラジオ体操をした後、お茶をいただいている時のことでした。

荒浜地区は、仙台の市街地からどの位の位置にあるのでしょうか。広い

広い野原という印象でした。海側の方にヒョロヒョロと松が生えている。所々に映画「幸せの黄色いハンカチ」のような旗が立ち、その原野の中を大きなトラックが走っている風景。しかし、よく見るとたくさん家の土台がそのまま草に埋もれ、ここが玄関だったんだろなと思われるタイルの三和土(たたき)が残っていたり…。今はまだ戻って家を建ててはいけない場所になっているとか。それでも、ここに帰ってきたという想いがあの「幸せの黄色いハンカチ」ならぬ「黄色い旗」。

う…。しかし、ここも立ち入り禁止。松も荒れたままで、悲しく、怒りさえこみあげてくるような風景。7月末から日本キリスト教団東北教区支援センター「エマオ仙台」に行きました。「あの日」の後、近くに行ければと願ひ祈り続けてやっとなお、10月1日から第4次派遣期間に入っています。

# 支援活動かよう

◆第3次派遣ボランティア(4月1日～9月30日)東北教区被災者支援センターに12名派遣しました。

◆奥羽教区の4教会(大船渡、宮古、新生釜石、千厩)の経常会計支援として40万円送金しました。

◆東北教区被災者支援センターに、扇風機3台とクーラーボックス2台を購入するための費用3万円を送金しました。また、同センターのスタッフの研修会費用として、20万円送金しました。

◆会津放射能情報センターの会員への食料支援として、熊本の農園を紹介し、試食用野菜を10セット送付しました。

◆東日本大震災を覚えて講演会「被災の経験から見えてきたこと」東日本大震災と障がいのある子どもたち(講師：菅井裕行さん(宮城教育大学教員))を11月11日開催しました。

◆被災地の親子を対象とした保養

プログラムを春休みの期間に実施できないか、模索中です。また、親子が短期・長期で滞在できる場所が確保できないか調査中です。どうぞ、情報をお寄せください。

◆今年度、これまでにお寄せいただいた支援献金の合計は380,317円です(11月8日現在)。尊い献金に感謝いたします。

今期の小委員会は、新堀真之(委員長・香椎教会)、西岡裕芳(書記・福岡警固教会)、竹内款一(会計・長崎銀屋町教会)の3名です。よろしくお願ひします。



似顔絵提供：福島義人画伯(1面も)

# 第4次被災地ボランティア募集

派遣先：東北教区被災者支援センター(仙台市)

派遣期間：各自でお決め下さい。

(ただし3日以上ワーク可能な方)

派遣補助：教区より一人5万円

作業内容：外ワーク、仮設住宅での活動、こどもプログラム、夕食ボランティア等

お問合せ：委員長 新堀真之

(香椎教会 092-661-3419)

詳しくは募集要項をご覧ください。



# 支援献金も継続募集中です!

うにしたいと思いません。言葉は通じませんが、台湾から来ている青年たち。大阪から一人でやってきたという高校生。話題が同じで心置きなく一緒にこの世を嘆いた牧師夫人。すごいいいびきの人、エマオのスタッフの一人ひとり、そして仮設住宅で「パサパサ」を教えてくださいました。お庭の草取りをした家の老夫婦……ありがとうございます。



◆被災地の親子を対象とした保養

※「しんさいかわらばん」はギリシア語ではなく日本語です。「しんさい/震災」と「かわらばん/瓦版」を合成した言葉です。東日本大震災で被災された方々の隣人として「震災」や「被災者支援」に関連したニュースをお伝えします。